

平成 28（2016）年度 調査研究書
豊中市の地域経済構造分析に関する調査研究

熊本伸介 研究員

要旨

人口の減少などの社会環境の変化が豊中市の経済にどのような影響を与えるのかについて、本市の経済のモデルとデータから明らかにし、豊中市の主要な産業の可能性と課題について考察を行った。

第 1 章では、豊中市と吹田市の比較を行い、豊中市よりも吹田市の方が経済的に自立していることを明らかにし、豊中市がより経済的に自立していくために、地域経済構造分析の枠組みを使って豊中市の地域経済の構造を明らかにしていくこととした。

第 2 章では、地域経済構造分析とは何かを説明し、豊中市の域外収支がプラスであることを明らかにした。

第 3 章では、豊中市の人口や産業の基盤を明らかにした。豊中市の人口は微増傾向にあるが、豊中市で働く就業者は減少している。また、豊中市の経済をけん引している産業は、建設業、製造業、小売業、不動産業、福祉産業であることを明らかにした。

第 4 章では、RESAS のデータを使いながら、豊中市の経済を牽引している産業の分析を行い、豊中市地域経済課（当時、現産業振興課）が平成 24 年度に行った調査とは違った見方の分析を提示した。

第 5 章では、第 2 章から第 4 章で論じきれなかった居住都市としての豊中市のポテンシャルについて論じた。特に、サービス業と情報産業と空港を活かした産業振興が有益であると論じた。

その結果、主に次のことが確認できた。

- ・豊中市の人口は微増傾向にあるが、生産年齢人口は減少している。
- ・豊中市の域外収支は平成 22 年（2010 年）の時点でプラスであるが、人口が減少し、経済力が低下すれば、域外収支は減少する。
- ・豊中市の経済を牽引している産業は、建設業、製造業、小売業、不動産業、福祉産業である。
- ・豊中市と吹田市を比較すると、吹田市のほうがサービス産業（非基盤産業）が盛んで、地域にお金が循環しやすい構造になっている。

目次

- 1 はじめに
- 2 地域経済構造分析とは何か
- 3 豊中市の人口と産業の基盤
- 4 豊中市の産業の状況
- 5 どうすれば豊中市はより自立した経済を作り上げることができるのか